

情報経営科

2023課題研究 Vol.5

～ 空き家の可能性を探る ～

9月12日（火）有田市初島町の古民家を訪れました。築130年から140年と言われる大きな邸宅でした。前面道路は車が通れる幅があり、隣はカフェがあり、初島駅にも近い閑静な住宅街でした。この日は、家主さんから有田市の空き家バンクを通じて借り受けている梅本さんに話を聞くことができました。その家は母屋、納屋、庭、店舗跡（元化粧品店）から敷地が成り立っており、何代も続いて住まれてきた旧家とのことでした。昔の家は土壁でできているのは湿度を落とし、断熱効果があるからとの話も伺いました。築100年以上経つのに柱もしっかりしているのは昔の大工の技術力のすごさを物語っています。民家の中にお邪魔させていただいたところ、平成3年のカレンダーを見つけることができました。その頃から空き家の状態になっていたことが想像できます。家の中には、昔からの家財が残っており、歴史を感じることができました。

隣にカフェができ、人の流れも変わってきていたので、梅本さんはこの古民家をなんとかリノベーションして地域活性化につなげたいと思っていたところ、有田市の空き家バンクに登録されているのを見つけ、借り受けることができましたそうです。所有者から賃貸料を支払いながら借り受けているそうです。所有者の了解を得ながら、人が集いコミュニティの拠点となる寺小屋などにリノベーションしていきたいと梅本さんは意欲に燃えていました。

しかし、梅本さんは大工でもなくリノベーションのプロではありません。ではどうするか、答えは一言、「助けて！」でした。助けてと言えるネットワークを作ることが大事とのことでした。様々なジャンルの人と交わりながら空き家再生につなげたいとのことでした。また、有田市には、物件として良質ではない空き家がたくさんあります。しかし、そうした物件も不動産業者とアーティストでは価値観が異なります。私たちは、アーティストにより空き家が再生された例も見てきました。ぜひ、様々な視点、多様な価値観で空き家の可能性と向かい合っていきたいと感じました。



空き家の可能性にクリエイティブな面白さを感じました！！